

## ■トラック 1

初めまして…ですわね？ 栄養射精係さん♪

…私は、ルシカ・ヴェルディリス。

この、王立リリス・サキュバリエ女学院の生徒会書記にして、  
才色兼備と名高い高位サキュバスですわ。

…ふふっ、光栄に思いなさい？

あなたのような下等な存在が、この私と会話するなんて、  
普通は絶対にあり得ないんですから…

私達の栄養射精係にでもならない限り…ね？

……ああ、言っておきますが動けませんよ？  
あなたは魔法によって、その椅子に縛り付けられていますので。  
味見が終わるまでは、そのままです。

……ん？ あらあら。

どうやら、すっかり興奮してしまっているみたいですね？

……そう、これも私達の能力です。

サキュバスが出す特殊なフェロモンで、たちまち性的興奮状態になって、  
勃起が止まらなくなってしまうのです。

…では早速、おちんちんの状態を確認させていただきますでしょうか

んっ、んん…へえ？ これは…驚きましたわね。

色々な射精係を味見してきましたが…  
ここまでバッキバキに勃起できる個体は、あなたが初めてです。

んふふっ…これなら期待してもよさそうですね。

では早速、味見を始めていきましょうか。

んっ、んん…しこしこ…しこしこお…。

ん…あらあら、どうしちゃったんでしょう？

おちんちんの痙攣、止まなくなっちゃってますよ？

軽く触っただけなのに、こんなに反応しちゃうなんて…  
凶悪な見た目の割に、おちんちんはクソ雑魚なんではなか…？  
んふふふっ…♪

なあんて…。これも、私達的能力なんです。

直接性器に触ることによって、どんどん感度が上がって…  
射精欲が止まらなくなってしまうんです。

ね…どうですかあ…？

もう、金玉きゅんきゅんして…んっ、ああ…  
濃厚ザーメン、びゅっびゅーって出したくなってるんじゃないです…？

変に我慢なんてしないで…  
パンパンに詰まった金玉の精子、吐き出しちゃった方が楽ですよ？

……ん？ あらあら、そんなに震えて……  
まさか、命の心配でもしてるんですか？

ふふっ、まあ無理ありませんね。  
搾りすぎて干からびちゃったオスも、過去には何人もいますし♪

でも安心してください。  
一回くらいなら、死んだりなんてしませんから。

なので…心配せずに、早く出しちゃってください？  
ほら…亀頭も、竿も、全部熱くなって…はあ、はあ、んっ。  
おちんちん、もう爆発しちやいそうなんではなか…？  
んあ、ああ、んっ…。

あ、んっ…しこしこ、しこしこおっ。  
下等生物のくせに、あんまり手間取らせないでくださいねえ…？  
しこしこ、しこしこお…はあ、はあ、んっ…しこしこしこっ…  
んっ…ほら、せーののおっ♪

あっ、んっ…びゅっ、びゅううううううっ…  
びゅくっ、びゅるるるううっ、びゅっ、びゅっ…  
びゅうううううう…♪

……んっ、ふふふっ。

私の手コキ、気に入っていただけたみたいですね？

ほら…あなたの精子、こんなに飛び散って…  
床まで汚れちゃってますよ…？

……んふ。信じられないって顔、してますね？

まあ…私のような高位のサキュバスに手コキされたんですから、  
このくらいは普通ですよ。

すんっ、すんっ…んっ、んふふふっ…♪

ああ…すっごく、いい。

若い精力がたあっぷり詰まった、濃厚なオスの匂い…♪

ああ、んっ…すんっ、すんっ…んっ、れるっ、んちゅっ…  
んっ…ああ、美味し♪

やっぱり、若いオスの生搾り精子はいいですねえ…♪  
生命力に満ちたこの魔力、いつ食べても脳が震えます。

ただ…知っています？

精子って、外に出た瞬間から劣化が始まるので…

例えば、ここ…  
フェラで尿道から出てきてすぐの精子を飲むのが、  
一番新鮮な状態で魔力を吸収できるんです。

……ん？ もちろん、休憩時間なんて、与えませんよ…？  
だってあなたは、ただの食料なんですから…

ほら、こうしてよだれをおちんちに垂らしてあげれば…  
んれるうううう…。

ふふっ…ほうら。簡単に勃起しちゃいましたね？

あなたの意思なんて関係なく、意のままにオスの  
おちんちんを操れるんです。すごいでしょ…？

……と、余計なお喋りはこのくらいにして、

おちんちん、食べさせてもらいましょうか。

んっ…んあああむ♪

ああ、おいし…♪

射精したての生おちんちんをしゃぶるのは、たまりませんねえ…。

特にこの…んっ、れるっ、れるう…

尿道から出てくる精子が、とてもフレッシュで…

どんどん、吸い出したくなっちゃいます…♪

んっ、あ、ああ…残念。

もうちょっと飲みたかったのですが…

でもまあ、どうせまたすぐに射精させちゃいますし…

別にいいんですけど。

……あら、とっても苦しそうな顔してますね…？

まあ、サキュバスの中でも、私の唾液はかなり刺激が強いので…

そうなって当然です。

…むしろ、まだ暴発してないだけでも偉いですよ。

クソ雑魚なオスは、唾液をかけただけでも廃人になってしまったこともありますし。

あの時は、まさかそのくらいで壊れてしまうとは思わず…

もったいないことをしてしまいましたわ。

あなたは大切な食料なんですから、すぐに壊れてしまわないよう、

せいぜい頑張ってくださいね…？

……あらあら。

勃起おちんちん、ビクついてきましたね。

まだ始まったばかりなんですけど…よっぽど、私の亀頭責めが

効いてるのでしょうか。

んふっ…私の亀頭フェラ、すごいですか？

私の舌、ご覧の通りとっても長いので…

こうやってえ…亀頭に、にゆるううって絡みつかせて…

全体を刺激したり…んっ、れるっ、れるれるおっ…

細くなってる先端部分で、尿道をこんな風に…

れるっ、れるっ、れるうっ…ちろちろちろおって、

ピンポイントで刺激したりもできるんです。

フェラのテクニックには、かなりの自信がありますので…  
んっ、れるっ、れるう…存分に、気持ちよくなってくださいね？

……あらあら、声が出ちゃってますね？  
金玉も、必死に精子作ってるみたいですし…んっ、れるう…  
また、出そうになっちゃってるんじゃないですか？  
んじゅるっ、れるっ、ちゅぶうっ…。

……ああ、やっぱり。  
我慢汁の味が変わってきたので、そんな気がしたんです。  
ん、ああ、れるっ、んちゅうっ…。

それでは…射精してもらいましょうか。  
尻尾でお手伝いをしてあげますから、さっさと出してくださいね。  
んっ、れるっ、れるう…んれるっ、れるう…。

……んふっ。これ、すごいでしょう？

こうやって、金玉を尻尾でキツく締め上げると…んっ、ああ…  
精子、上がってきて…れるっ、んっ、れるう…  
射精感、止まらなくなってしまうですね…？  
んっ、はあ、はあ…れるっ、んれるう…。

私が、お口で受け止めてあげますから…  
たっぷり、濃厚ザーメン…出してくださいね？

んれるっ、ああ、んっ…れるっ、れるうっ…  
ほら、出して、出してっ…びゅっびゅうって、出してくださいっ…

んくっ…！？ んっ、んっ、んうううっ…！  
んじゅるっ…んっ、んれるっ、れるううっ…  
こくっ、ごくっ…んぐっ、んっ、んっ、んっ…ごくんっ。

んっ、んん…ちゅぽおっ…んっ、ふふふっ…。  
ああ…やっぱり、注ぎ口から直接飲むのは最高ですねえ。

精気に満ちあふれていて…口に含んだ瞬間から、  
脳を突き抜けるような味がして…震えてしまいます。

んくっ、ん、ああ…。ダメじゃないですか…。  
こんな精子を飲んでしまったら、もう…  
我慢出来なくなってしまうです。

んっ、ああ…見たところ、まだ元気は残っているようですし…

もう一発、射精できますよね？

まあ3度も射精したら、さすがに廃人になってしまうかもしれませんが…  
やむを得ないでしょう。

だって、こんなに美味しい精子を出す方が悪いんですもの。  
ねえ…？ んふふっ。

ほら、口を開けて…？  
この私がキスで勃起させてあげます。

私とキスするオスは、あなたが初めてですから…  
光栄に思いなさい？

いかがです？ ディープキス、気持ちいいでしょう…？  
もちろんそれだけではなくて…

さっきも言ったように、私の唾液には催淫効果がありますから…  
あ…早速、効いてきたみたいですね？

ほら…おちんちん、復活してきましたよ？

んっ…硬さも、太さも十分…  
これなら、また射精できそうですねえ。

さて…次はどうしましょうか。  
またフェラというのも面白くありませんし…

最後は、私のおっぱいで逝かせてあげましょう。

……ふふっ、言葉通りの意味です。  
すでに、常人なら廃人になる量を射精していますし…  
恐らく次であなたの脳は完全に破壊されてしまうでしょうから。

せめて、最後くらいは幸せな記憶を…と思いまして。  
たわわに育った私のおっぱいに包まれながら、果ててくださいね。  
短い時間ではありましたが、楽しかったですよ…？

んあ、ああ…ズリズリ、ズリズリい…。  
いかがですか？ 私の、おっぱい…んあ、ああ…。

……んふっ。

とっても柔らかくて、気持ちいいですよねぇ…？  
それに、ん、ああ…サイズも、すごく大きいので…  
おちんちん、ゼーンぶすっぽり包み込めちゃいますし…  
お肌もしっとりして…

まるで、おまんこの中に入ってるみたいで…最高でしょう？  
ああ、んっ…ずりずり、ずりずりい…。

……あら、可哀想に…童貞でしたか。  
このまま、セックスも知らずに廃人になってしまうなんて…  
まあでも、いいではありませんか。

この、リリス・サキュバリエ女学院…  
生徒会書記のルシカ・ヴェルディリスの胸の中で逝けるのですから。  
きっと、あの世で自慢できますよ…？ んふふふっ…。  
ん、んっ…ああ…。

……はあ、寝言も大概にしてください。  
あなたは下等なオスであり、ただの魔力供給源なのですよ？  
そのような者と私が、セックスなんてするわけないでしょう？  
んっ、ああ…。

そもそも…パイズリだって特別なんですから…ああ、んっ、  
わがままはいけませんよ…？

それに、パイズリでも十分感じてるじゃありませんか。  
ほら、おちんちん、また大きくなって…ああ、んっ、  
おっぱいから、はみ出てきちゃってますよ…？  
んっ、はあ、はあ…。

私の胸から顔を出せたおちんちんは、これが初めてですし…  
あなた、誇ってもいいですよ？

んっ、んう…んっ、では、こうしましょう。  
せっかくですから、この突き出た亀頭を…ああ、んう…  
私のながあい爪でひっかいて…カリカリってしてあげますね。

カリカリ、カリカリ…ん、んあ、ああ、んっ…。

……んふふっ。  
先っぽ刺激されるの、たまらないみたいですねぇ…？  
我慢汁、だらだら溢れてきちゃいましたよ。

おちんちんも震えて…  
また、精子上がってきちゃってるんでしょう…？  
んっ、ああ…

……そうですねえ？  
では、手伝ってあげますから…  
金玉に残った精子、一滴残らず吐き出して…  
思いっきり、気持ちよくなっちゃいましょう…？

ほらぁ…もう出してっ、びゅっびゅううって射精して…  
頭の中、真っ白にしちゃってください…？

んっ、ああっ…カリカリ、カリカリ…  
ん…はい、どうぞお♪

……んっ、んうう…びゅっ、びゅうううっ、  
びゅくっ、びゅっ、びゅるるうううううっ…！

んっ、あ、ああ…ふっ、んふふふっ。  
ああ…とっても素敵です…。  
生命が果てるときの、大量射精というのは…  
んふっ、何度見ても美しいですねえ…。

それに…んくっ、んれるっ、れるう…じゅるるっ。  
魔力もたっぷりで…ああ、久々に満足できそうです。  
ああ、んっ。

んっ、あ、ああ…

……あら、やっぱり壊れてしまいましたか…。  
このくらいでダメになるなんて、軟弱なオスなこと…。  
せっかくの美味しい精子の持ち主でしたが、残念。

これでまた、食料調達部会に叱られてしまいますわね…。

けど…人間が貧弱すぎるのも問題ですよねえ。  
もう少し、私の力に耐えられる人間がいればいいのですが…

さてと…これはもう用済みですし、処分していただいて――

……え？

あ、あなた、まだ動けるのですか…？  
確実に致死量の射精をしているはずなのに…。

本当に、人間ですか…？

それに…そ、それっ…あ、あり得ないっ…  
まだ勃起できるわけ…

い、いえ…まあいいでしょう。

勃起できるのなら、また搾り取ってあげればいいだけのこと。

この私を、満足させられるか…本気で試して差し上げます♪